

履修モジュール【人間と環境】

NO.	テーマ	概要	1・2年次	3・4年次	ゼミナール担当者
63	組織内における人間行動やコミュニケーションを分析する	人は誰しも何らかの組織に所属している。そして、組織は組織メンバー間の相互作用とコミュニケーションなくしては存続しない。また、(不)健全なコミュニケーションが、様々な組織のパフォーマンスや問題(組織業績、組織事故、不祥事等)、組織メンバーの肯定的否定的行動・態度(モチベーション、コミットメント、報復行動等)の要因となる。それゆえ、組織コミュニケーション(人間関係や情報交換の適切性)を分析することが重要である。このような組織内の社会現象を分析するためには、その方法論(社会調査法)も学ぶ必要がある。	小集団コミュニケーション 組織論 社会心理学A・B ミクロ経済学 社会学A・B 統計学A・B 社会調査法A・B ジェンダー論 異文化理解	組織コミュニケーションA・B 組織と情報 NPO論 意思決定論A・B 人間性心理学 不確実性下での人間行動 異文化間コミュニケーション 社会調査実習 質的調査分析法 データ解析論・II	山口 生史
64	地球上に進化した動物と人間という見方を理解する	私たち人類は、6000万年ほど前に地球上に現れたサル仲間から進化した。そして、260万年前から繰り返してきた氷河期の中で、協力集団として生き抜く知恵を向上させ、文明を形成するに至ったのである。その過程では、さまざまな植物や動物との共存関係が形成されてきた。他の動物と比較して人間の特徴とは何か、その特徴はどのような生活環境がもたらしてきたのか、そして文明の環境で直面する、人間が不得意なことは何か、こうしたことについて理解を深めてみよう。	地球環境科学 環境生物学 生命論A・B 人類学A・B 脳科学	身体と意識 認知科学Ⅰ・Ⅱ 自然地理学	石川 幹人
65	脳はコンピュータなのか?	情報技術が発展して高度な仕事をコンピュータがこなす時代になった。一方で、脳の解明が進み、人間の感情や思考がどの部分の神経回路によって担われているかが、判明してきた。脳を見ると、コンピュータのような配線の仕組みが見える。ならば、自覚的な意図や意識をもっている私たちも、機械にすぎないのだろうか。自由な意志がなければ責任を担うこともできないはずである。現代のこの大きな問題をつきつめて考えてみよう。	情報科学 心理学A・B 脳科学	科学技術と人間 認知科学Ⅰ・Ⅱ 身体と意識	石川 幹人
66	科学技術はどのように情報社会を創ってきたのか	印刷・電気通信・写真・テレビ・電話などと、多くの技術開発が、今日の情報社会の形成に寄与してきた。それによって人間の生活様式や集団形成の方法が変化してきたし、これからも大きく変化していくことだろう。高度な情報社会に生きていく私たちに、この変化の流れをつかむことが求められている。それには、まず過去の歴史的変遷をつかむことが近道である。	科学技術史 科学リテラシー	科学技術と人間 情報社会論A・B メディアの歴史 情報システム論	石川 幹人
67	ダイバーシティとともに働くことを考える	人口の減少により長らく基幹労働者とは捉えられてこなかった女性や外国人の活躍が期待されている。同時に仕事と育児や介護のようなケアワークとの両立が難しく、社会問題となっている。政府や企業の施策や現場の様子、そこで働く人々の経験について学び、今後ますます多様化が進むと思われる社会における働き方やそのような社会のあり方について考える。	経営学 組織論 異文化理解 社会学A・B 小集団コミュニケーション 社会心理学A・B	ジェンダー・マネジメントⅠ・Ⅱ 家族社会学 組織コミュニケーションA・B 異文化間コミュニケーション 人権と政策 ユニバーサルデザイン	根橋 玲子
68	多文化共生の現状と課題を考える	多くの国で労働不足などを理由に移民の受け入れが加速され、表面的には多文化共生を促進する取り組みがなされてきた。しかし、移民の受け入れは失敗だったと明言するリーダーがいるように、社会的な格差や文化の衝突などの問題も指摘されている。日本でも文化的多様性が進み外国につながる人々は増え続けている。本モジュールでは日本の多文化共生の現状を理解し、多角的に考察する。	比較文化(基礎)A・B 異文化理解 コミュニティ論 法学 社会心理学A・B 小集団コミュニケーション	個人と国家 国際開発論 地域文化論 多文化と相互理解Ⅰ・Ⅱ 異文化間コミュニケーション 社会福祉学A・B	根橋 玲子
69	<いのち>やく生き方>について倫理学や哲学・思想の視点から学ぶ	「生命とはいったい何なのか」といった<いのち>に関する哲学的問題や、「人はどう生きるべきか」といった<生き方>に関する倫理的問題について掘り下げる。ちなみに、当学部が設立理念には、現代社会の諸問題と解決策を「倫理学、思想・哲学を基礎として、社会学、法律学、経済学、政治学などの社会科学の観点から学際的・総合的に教育」することが謳われている。倫理学や哲学・思想を基礎として、様々な問題を見つめる眼を養って欲しい。	生命論A・B 哲学 宗教学	生命思想史Ⅰ・Ⅱ 倫理学 記号論 身体と意識 比較文学・比較文化	岩淵 輝
70	<いのち>の観点から人間と社会を考える	現代社会には、脳死・臓器移植、安楽死や尊厳死、孤独死や孤立死、出生前診断や人工妊娠中絶、デザイナーベビーや遺伝子操作(含むゲノム編集)、環境問題や原発問題、食の安全や医薬品の安全の問題など、<いのち>にかかわる実にさまざまな問題が存在する。また、世界に目を向ければ、紛争や内乱などにより今も多くの人命が失われている。本モジュールでは、<いのち>に関わる様々な問題を学びながら人間と社会について考えを深めて行く。	生命論A・B 哲学 社会学A・B 家族社会学概論 組織論	生命思想史Ⅰ・Ⅱ 倫理学 科学技術と人間	岩淵 輝
71	新型コロナウイルス感染症によって私たちの社会空間はなにが変わるのか	人間の歴史を見ると、深刻な伝染病の拡大が社会を大きく変えてきたことは何度でもある。行動制限、社会的距離、清潔感覚、あらゆる出会いと社会的交流の減少と偶然性(「たまたま」生じるということ)の喪失は、人と人との相互行為のありかたそのものを第一に変えてしまう。このことは、複数の人物からなる社会空間、公共空間への関わり方や、その感覚を変えてしまうかも知れない。これまでの「ノーマル」とこれからの「ノーマル」の傾向について考える。	社会学A・B 社会心理学A・B コミュニティ論 哲学 ジェンダー論	メディア論 コミュニケーション思想史 社会思想史 倫理学	宮本 真也
72	ヨーロッパ社会のあり方を留学を通じて日本の状況と比較する	同じ先進国であり、第二次世界大戦での敗戦国であり、ものづくりの精密さや巧みさで日本とドイツはよく比較される。しかし、個人々の平均労働時間が日本よりも少ないにも関わらず、国民一人当たりの国内総生産では日本を上まわり、脱原発を決めて再生可能エネルギーへの移行でもヨーロッパを主導するドイツには、日本に暮らすものからすれば謎が多い国であるとも言える。少子化、環境問題、労働者不足、多文化共生、人権など、同じ問題を抱えながらちがうアプローチをとるドイツの社会と文化を、協定校留学を体験しながら学び、グローバルな視点を培う。	社会学A・B 西洋史概論 外国文学	コミュニケーション思想史 社会思想史 地域文化論(ドイツ)	宮本 真也
73	人間は社会について何を考えてきたのか?	有史以来、人間は自分たちが生きる社会について、それぞれに理想を思い描いてきた。それが個別の社会を作る基盤になることもあれば、他の社会との対立の理由になることもある。また、社会の内部ですら、対立や闘争の火種になることもあった。日本社会がグローバル化のまった中にある限り、異なる思想を背景にもつ社会との接触は避けることができない。対立の回避や共存の道を探るためにも、思想のヴァリエーションを知っておきたい。	政治学 比較文化(基礎)A・B 宗教学 哲学 人類学A・B	コミュニケーション思想史 倫理学 経済思想史 社会思想史 現代政治学Ⅱ 国際経済論A・B	宮本 真也

履修モジュール【人間と環境】

NO.	テーマ	概要	1・2年次	3・4年次	ゼミナール担当者
74	情報社会の思想的基盤を問う	現代社会は言うまでもなく、情報社会である。この社会は、人間の生活の多種多様で、より深い部分にまで「情報化」が進んだ社会と云ってよい。こうした運動が進行するのは必ずしも自然発生的なものではなく、私たちが歴史の中で培い、運び取ってきた思想的な方向付けが作用している。具体的な技術や現象に目を奪われず、その背景にある情報社会のパラダイムを知ることが、今後の動向を予測するためにも必要である。	哲学 メディア・アート メディア・リテラシー 情報倫理	メディア論 情報社会論A・B メディアの歴史	宮本 真也
75	思想の背景としての宗教への信仰	現代という時代は脱魔術化の過程の延長線上にあると思われてきたが、昨今の国際情勢を鑑みれば、非合理的な思考はとうてい影響力を失ったとは言えない。国際化、グローバル化が進むほどに、宗教的な差異が異なる社会どうし、そして同一の社会内部で対立を生みだしてきていることは、明白である。この実情を的確に把握するために、宗教の歴史と現在について理解しておくことが求められる。	社会学A・B 宗教学 美学・芸術学 西洋史概論 人類学A・B	地域文化論（中国・朝鮮・スペイン・イスラーム） 多文化と相互理解Ⅰ・Ⅱ	宮本 真也
76	東南アジアを端緒として現代社会の課題を考える	国際交流プログラムで実際に見聞したり交流したりする機会があるタイなど東南アジア諸国をみれば、SDGsなどでも取り上げられる水資源の問題、衛生問題など様々な課題に気づくことだろう。一方、「日本の常識は世界の非常識」とも聞く。また、近年若者たちが伝統的価値観や強硬的な政治に声をあげている。彼らとの交流は大きな刺激となるだろうし、発展途上だからと切り捨てたり、私たちのやり方を押しつけることなく、課題解決を図るにはどうしたらよいだろう。	マクロ経済学 ミクロ経済学 新興国事情 国際交流	国際経済論A・B ソーシャルビジネス論・NPO論 地域文化論 多文化と相互理解Ⅱ 異文化間コミュニケーション	和田 悟
77	情報技術利用の高度化に対応するスキルを考える	近年はAIが様々な場面で用いられているが、学習に用いられているデータに偏りがあれば、判断結果にも偏りが出る。幅広く利用可能なものにするには、様々な意味での多様性への配慮が必要となる。国際交流などを通じて異なる社会的な背景や価値観を持つ学生との交流の経験があれば、より実感をもって多様性の重要性を知れるだろう。例えば、文化が異なれば、プライバシーや規範意識も異なるだろう。最新技術の応用・適用の担い手となるために必要な視点を考える。	社会学・哲学 情報倫理 メディアリテラシー 新興国事情 国際交流	情報社会と教育 情報社会と安全 多文化と相互理解 ユニバーサルデザイン 情報産業論	和田 悟
78	合理性と人間性とのバランスがとれた意思決定をするためには？	地球環境を破壊したのでは、人間は生きられないと感じている。同時に、人間は個人的な夢も追い求めたい。両立させるためには、どうしたらいいのだろうか。それを考えるためには、複数の判断基準を知り、複数の判断技術を身に付け、自分の意見を他者に理解してもらうための技術の修練をいとわぬ。そのような試行錯誤の末に、自分なりに納得できる、人間らしいバランスの中で生きる道筋を見つけられるかもしれない。挑戦する相手は、過去の自分の意思決定スタイルです。	社会心理学 地球環境科学 脳科学 クリエイティブ・コミュニケーション 科学リテラシー	意思決定論A・B 消費行動の心理学 認知科学 不確実性下の人間行動 リスク社会論	熊田 聖
79	不思議現象を科学する	幽霊やUFO、雪男などの目撃報告や、交霊ができるとか超能力が発揮できるとかの主張を耳にする。それらの不思議現象についてどのように考えればよいのだろうか。ひとつには心理的な錯覚や記憶違いで、もうひとつには社会的な流言現象として説明できる。しかし、それらの説明だけでは信奉者を説得できない。信奉とは何か、そして科学的な説得の有効性と限界はどこにあるかを、深く考えていこう。	心理学A・B 社会心理学A・B 人類学A・B 脳科学	身体と意識 不思議現象の心理学 認知科学Ⅰ・Ⅱ	蛭川 立
80	ソフトウェアを理解する	私たちの身の回りで多くのコンピュータが利用されている。これらのコンピュータ上で動作するソフトウェアは、できるだけ不具合がないように注意深く作成されている。しかし、社会に大きな被害・損害が生じる、ソフトウェアの不具合による大きなトラブルも決して少なくはない。このモジュールでは、ソフトウェアの仕組みや作成方法を学習することでソフトウェアの特性や問題点を理解し、さらには情報社会における問題点を理解することを目的とする。	プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ 専門情報リテラシー 情報検索論	情報システム論 情報デザイン論 アルゴリズム実習Ⅰ・Ⅱ	山崎 浩二
81	格差を生み出し、維持する心理的メカニズムを理解する	格差の存在は、不利な立場に置かれる人々を苦しめるばかりでなく、有利な立場の人々にも悪影響を及ぼす。格差が社会関係資本を損ない、治安や健康に悪影響を及ぼすためである。しかし、現実には格差の解消は遅々として進まない。これには制度的な不備ばかりではなく、格差の存在を合理化して維持してしまう心理的メカニズムが寄与している。格差の解消のための社会的合意をいかに引き出すかを、心理学の観点から考察する。	社会学B 社会心理学A・B 社会調査法A・B ジェンダー論 新興国事情 統計学A・B	ジェンダーと社会A・B 家族社会学 ユニバーサルデザイン 現代政治学Ⅰ・Ⅱ 人権と政策	脇本 竜太郎
82	経済行動を個の視点から理解する	物やサービスを購入する時、通常我々は選択肢について十分な情報を持たない。そのため、様々な方法で情報収集を行った上で意思決定を行うとするのであるが、そこには人間の考え方のクセや歪みが混入しやすく、結果的に合理的な判断ができないことも多い。経済行動における人間の考え方のクセや歪みを科学的に理解し、合理的な判断を支援する方法を探究する	ミクロ経済学 社会心理学A・B 社会調査法A・B マクロ経済学 統計学A・B	不確実性下の人間行動 情報と経済行動 消費行動の心理学 広告論 意思決定論A・B	脇本 竜太郎
83	偏見、差別、紛争の心理的メカニズムを理解する	紛争の解決は社会科学の重要な課題の1つである。しかしながら、現実には世界各地で紛争が繰り返されている。また、平等主義の重要性がある程度共有されている社会においても、特手定の社会的カテゴリに対する差別や偏見は根強く残っている。紛争やその危険性を高める偏見や差別がなぜ生じるのか、また、どのようにしてそれらを低減することができるのかについて探究する。	異文化理解 社会心理学A・B 社会調査法A・B 異文化コミュニケーション史 統計学A・B	社会文化史 国際関係論Ⅰ・Ⅱ 多文化と相互理解Ⅰ・Ⅱ 異文化間コミュニケーション	脇本 竜太郎
84	自然と社会の狭間に生まれるリスクの実態	自然災害や環境・公害問題のように、個人を超えた社会として直面している種々のリスクは、たとえば産業革命期の工業発展が大気汚染に繋がったように、自然と社会の狭間で生み出されています。こうしたリスクは自然条件・歴史的な経緯・社会の構造など、その背景を理解しただけで多角的な視点から検討を行わなければ、正確に理解することはできません。本モジュールは、このような複雑な問題と向き合うために、多様な学問分野の知識の渉猟を通して、広い視野と卓越した洞察力、そして調査の技法を獲得する道筋を提示するものです。	社会学A・B 社会心理学A・B 憲法 哲学 政治学 地理学 環境と社会 地球環境科学 科学リテラシー 統計学A・B	リスク社会論 自然地理学 人文地理学 環境政策Ⅰ・Ⅱ 社会調査法A・B 社会調査実習 質的調査分析法 データ解析論Ⅰ・Ⅱ	小林 秀行

履修モジュール【人間と環境】

NO.	テーマ	概要	1・2年次	3・4年次	ゼミナール担当者
85	社会の多様性をもたらす問題解決の困難さを理解し、対話による解決の可能性を考える	社会には多様な人々が生活をしており、その求めるところも様々に異なるが、社会において何らかの決定を下す際には、多様性をすべて取り扱うことは難しいのが現実である。このような現実のなかで、多様性に配慮した枠組みを作ることが住みよい社会を作り出すための重要な課題となっている。本モジュールは、行政機関・NPO・企業・地域住民といった各集団・個人の考え方を理解しながらも、1つの立場にかたよりすぎることなく、科学的なデータに基づき調整を図っていくための基礎を学びます。	クリエイティブ・コミュニケーション 日本語表現Ⅰ・Ⅱ 小集団コミュニケーション 科学リテラシー 社会学A・B 社会心理学A・B 組織論	リスク社会論 コミュニケーション思想史 NPO論 政策過程論 意思決定論Ⅰ・Ⅱ 組織と情報 不確実性下の人間行動	小林 秀行
86	「文系のデータサイエンティスト」を目指す	昨今では「ビッグデータ」ないしは「機械学習」や「人工知能」という言葉が注目されている。いずれも基礎的な統計的手法とICT技術に裏打ちされたものである。一見、いずれも文系の学生からは敬遠されがちである一方で、獲得・整理されたデータは「文系の知識」による解釈が求められることもある。また、こういった業界に務めるためには情報産業に関する知識も必要不可欠となる。データ分析のための理論と実践をつなげて学ぶことを目的とする。	科学リテラシー 統計学A・B 数理リテラシー 専門情報リテラシー（心理統計/社会統計） ICT統計解析・Ⅱ プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ	データ解析論Ⅰ・Ⅱ 情報産業論 イノベーションの経済学 情報と職業	後藤 晶
87	「よりよい社会」を実現するために現実を知り、理想を考える	何をもって「よりよい社会」というかは難しいが、少なくともこれからの社会の方向性の1つは人間の行動特性を踏まえた制度設計が必要となるであろう。そのために、行動の現実の記述を試みる「心理学」系の科目を学ぶとともに、行動の理想を示す「経済学」や「社会学」系の科目を学ぶ、そしてどのように現実と理想のギャップを埋めるか「政策的な考え方を学ぶ。	ミクロ経済学 クリエイティブコミュニケーション（行動経済学） 社会心理学A・B 心理学A・B 脳科学 社会学A・B	不確実性下の人間行動 情報と経済行動 消費行動の心理学 意思決定論A・B 認知科学Ⅰ・Ⅱ 公共政策A・B	後藤 晶
88	社会調査士の資格を取得する	本学部では社会調査士の資格を取得可能である。社会調査士とは調査企画から報告書作成までの社会調査の一連のプロセスを学んだことを示す資格であり、社会調査士の資格を取得しながら、自身の興味のある学問を追求していくのも一つの方法である。「データ解析論/Ⅱ」と「質的調査分析法」はいずれかを履修する必要があるが、アンケート調査などの量的研究に興味がある方は「データ解析論/Ⅱ」の履修を、インタビュー調査などの質的研究に興味がある方は「質的調査分析法」の履修を推奨する。	社会調査法A・B 専門情報リテラシー（心理統計・社会統計） 統計学A・B	データ解析論Ⅰ・Ⅱ 質的調査分析法 社会調査実習	後藤 晶